

Web Usability & Accessibility

ウェブのユーザビリティとアクセシビリティ

Vol.2

情報バリアフリー環境の整備に向けた取り組みは、中央省庁ではおもに総務省が指揮をとって進めている。省庁再編を機に、行政機関のWebサイトにも「使いやすさや利用しやすさ」を意識した変化がみられるが、総務省自体のサイトはどれだけその思想が反映されているのか。今回は、総務省サイトの診断と改善提案を行っていく。



アクセシビリティ分析担当

濱田英雄

(株)ユーディット 主任研究員
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当

石田直子

(株)ユーディット 研究員
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット

URL <http://www.udit-jp.com>

「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

サイトでは見つけにくい アクセシビリティの指針

日本ではまだまだ知られていない障害者のために配慮したアクセシブルなWebづくりも、アメリカでは国内の公共的なWebは「アクセシブル」にすることが法律で定められることになりました。

わが国でも、今回取り上げる総務省からアクセシビリティの指針が出されています。省庁再編時(2001年1月)に当面の対応として、「すべてのページに<title>情報を付与」「すべての画像リンクにテキストデータを付与」などの修正がされました。今後は「制作中のアクセシブルチェックシステムの実証実験結果も踏まえるなどして、必要な措置を講じる」とのことです。

以下は、残念ながら総務省サイトのかなり奥まったところに書かれている指針です。

http://www.yusei.go.jp/policyreports/chousa/barrier_free/010122_2.html(11ページ目)

「インターネットにおける アクセシブルなWebコンテンツの 作成方法に関する指針」

目的

Webのコンテンツ制作者(ページの作成者、ページデザイナー)、及び作成ツールの開発者向けに、バリアフリーなWebコンテンツを作成する方法を提示し、障害のある人がインターネットのWebへ容易にアクセスできるようにすること

指針

さまざまな形式に適切に変換できるコンテンツを作成するための指針

1. 音声や画像で表示されるコンテンツには代替手段を提供すること
2. 色の情報だけに依存しないこと
3. マークアップ及びスタイルシートは適切に使用すること

ユーザビリティの高いWeb作りのための6ポイント

- ・ ユーザーにサイトの目的が伝わること
- ・ 全体像がトップページで把握できること
- ・ デザインや構成が統一されていること
- ・ 必要な情報が適切な場所にあること
- ・ 次の動作がわかりやすいこと
- ・ 予想されたフィードバックが返ってくること

4. 自然言語の使用について明確にすること
5. 適切に変換できるような表を作成すること
6. 新しい技術をさまざまな形式に適切に変換できるページを保証すること
7. 時間の経過に伴って変化するコンテンツに対して、ユーザーの制御を保証すること
8. ユーザーインタフェースのアクセシビリティを保証すること
9. 特定の装置(デバイス)に依存しない設計であること
10. 臨時的対応策を利用すること
11. インターネットの技術標準及び指針を使用すること
理解が可能でナビゲーションが可能なコンテンツを作成するための指針
12. 文脈やページの構成などの情報を提供すること
13. ナビゲーションの仕組みを明確に提供すること
14. ドキュメントは明確かつ簡潔であること

Web制作者にわかりやすく 具体的なガイドラインを

さて、皆さんはこの指針を読んで、どのように感じましたか。「よくわからない」「具体的にはどう作成すればいいの」と思われた方も多いのではないでしょうか。

WAI(Web Accessibility Initiative)のガイドラインのもとに作られたこの指針では、残念ながら一般のWeb制作者にはわかりにくく、結局はテキストページを別にするか、あきらめてしまうのではないのでしょうか。

もともとインターネットは、個々の責任において運営されているものです。一人ひとりの理解が、見る人に優しいアクセシブルなWebづくりには必要です。制作者の豊かな発想をなるべく制約せず、具体的にわかりやすく、それほど手間のかからない、そんなガイドラインが必要ではないのでしょうか。

この連載を通して、アクセシビリティやユーザビリティに少しでも配慮したWebが増えることを心から願っています。(文:濱田英雄)

アクセシビリティの高いWeb作りのための6ポイント

- ・ 画像にはALT属性をつけること
- ・ 外国語の乱用はしないこと
- ・ <title>タグは的確につけること
- ・ 背景と文字色はコントラストがあること
- ・ フレームの使用は必要最小限にすること
- ・ 新しい技術には代替手段を用意すること

ユーザビリティについて(解説/石田直子)

総務省のホームページに期待すること

★★★★

ユーザーがサイトに期待することはさまざまですが、大きく分けると次のようになります。「行政初心者には総務省の役割を知りたい」「総務省の直近の活動や発表の資料が欲しい」「総務省とコンタクトを取りたい」などです。

サイトの目的は何か

★★

行政機関サイトの役割は、その機関の活動を一般に伝えることです。具体的なサイト目的を決めるとともに、ユーザーの期待に応えられる内容を検討しましょう。

- ・総務省の活動の概略
- ・総務省の所在
- ・総務省での発表資料、報告などの掲載、検索
行政のトップとして、次のような内容提供も重要です。
- ・国、地方行政関係の総合情報
また行政関係で使われる、わかりにくい用語などを解説するのもWebサイトならではの役割といえます。

サイトの目的ははっきり伝わっているか

★★

総務省の役割の説明、審議会などの紹介、白書などの掲載と、上記で想定した目的を作り手が意識しているようです。しかし、難しい用語をきちんと説明する場所が必要です。

全体像がトップページで把握できること

★★

事業内容が多岐にわたっていることもあり、さまざまな活動がトップページに出てきて戸惑います(図1-①)。真ん中から下に表示される各活動の紹介については、これらの活動があることを知ったうえでの表記です。このエリアの前に、「総務省の各活動」という一言があると、その上の部分との違いが理解できます。欲をいえば、サイトマップを見るまでもなく、トップページで総務省の活動が鳥瞰図のように把握でき、さらに詳細に入っていけると良いでしょう。

また「トピックス」に書かれている内容は、各サイトのどこに分類されているものなのかが不明です。

デザインや構成が統一されていること

★★

トップページの真ん中から上に配置されているリンクと下のリンクではページデザインが違います。表現する内容が違うこともあり、すべて同じにするのは難しいでしょうが、ナビゲーションに関するボタンなどは統一しましょう。「戻る」(図2-②)は、全ページ共通で使うと良いですね。

必要な情報が適切な場所にあること

★★

総務省の活動内容が知りたい人には、「総務省のご案内」というページがあります(図2)。各活動が紹介されていますが、その具体的な内容(発表資料、直近の活動)が示されているページへのリンクがあると良いでしょう。たとえば、「新時代の地方自治の確立」とある場合、これを担当している地方行政のページ(図3)へのリンクをつけましょう。

次の動作がわかりやすいこと

★★

トップページには、別のサイトへのリンクと、自サイト内のリンクが混在しているようです。唐突に別のサイトに行くと、自分が今どこにいたか、戻れるのかわからなくなり不安になります。できれば、「○○のサイトへ」などの小さいコメントをつけましょう。

予想されたフィードバックが返ってくること

★★

上述のように、別のサイトへのリンクが混在しています(図4)。知らずに別サイトへ行ったときに、そこにある「戻る」ボタン(図4-③)を押すと総務省のトップでなく、行った先のトップへ戻ってしまいます。

ユーザビリティ総合評価

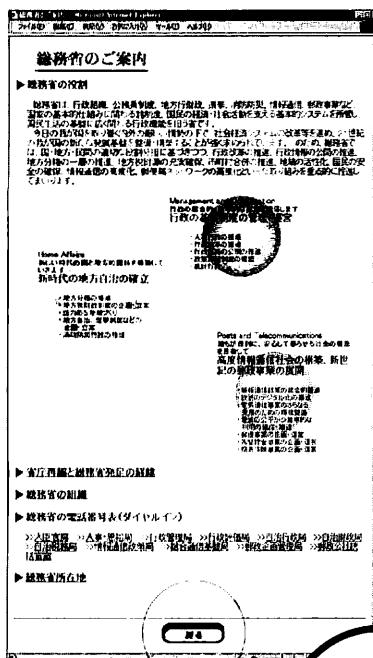
★★★★☆

一ロコメント サイトで何を伝えるべきかを理解した構成になっており、総務省の活動がつかめます。しかし、たくさんの情報を盛り込もうとする意識が強く、気づいたらユーザーが別のサイトへ行って戻れなくなる恐れがあります。

図-1 http://www.soumu.go.jp/index.htm



図-2 http://www.mha.go.jp/soumu/index.html



②

戻る

図-3 <http://www.mha.go.jp/c-gyousei/index.html>

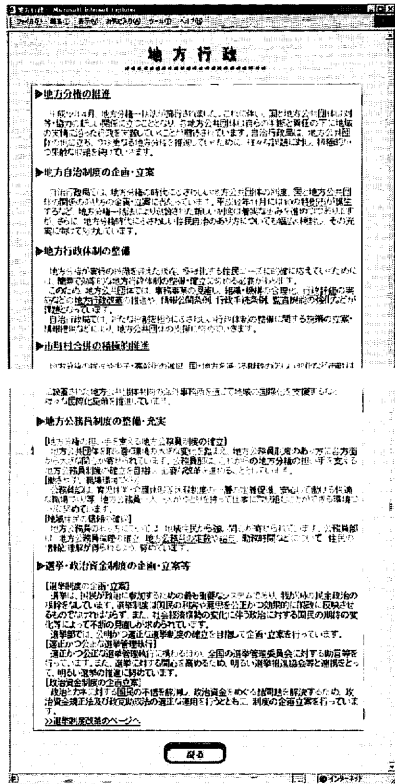
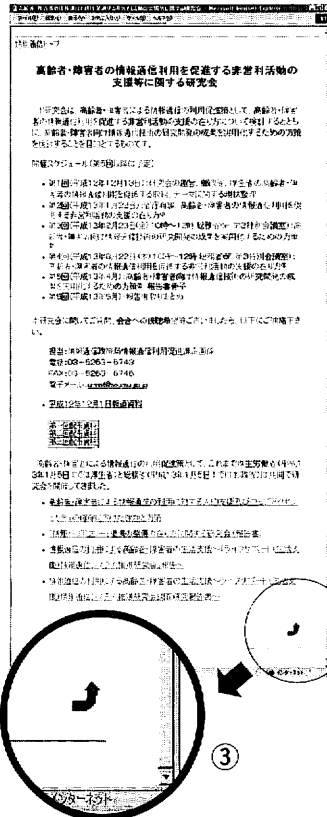


図-4 <http://www.mpt.go.jp/whatsnew/barrier-free/support010105.html>



アクセシビリティについて(解説/濱田英雄)

画像にはALT属性をつけること

★★★★★

一部のページでALT属性とリンク先テキストがダブって二重読みになっています。「行政評価局」のページで、ワンポイント画像に「まる」と入っています。これ自体は一つの考え方として良いのですが、この画像にリンクを張らないようにすると、音声ブラウザでは「まる」と男性の声で、リンク先を女性の声で聞き分けができ、わかりやすくなると思います。

外国語の乱用はしないこと

★★★★★

見たところでは外国語が多用されているところはありませんでした。しかし、漢字が多すぎて内容がわかりにくいという欠点があります。

<title>タグは的確につけること

★★★★★

一部、フレーム使用のページで<title>属性がついていないところがありました。とくに、フレームの場合は表からは<title>が見えないので注意が必要です。また、<title>が内容ではなく日付けになっているところもありました。

背景と文字色はコントラストがあること

★★★★

トップページの各局リンク先アイコンの、青地に黒文字は見にくい。ほかにも同系の色のタイトルがありました(図1-①)。「総務省のご案内」では、背景画像と文字が重なると薄い青字は読みにくくなります(図-2)。

フレームの使用は必要最小限にすること

★★★★

階層下でいくつか使われているところがありましたが、2フレームなので許される範囲です。ただし、一部にリンク先だけのフレームがあり、本当に必要なのか疑問がもたれた箇所もありました。

新しい技術には代替手段を用意すること

★★★★★

関連サイトには、いきなりFlashというところもありましたが、このアドレス内では見受けられません。

その他

- トップページで見えないテーブルタグを使って、各庁へのリンク先や説明が並べられています。音声ブラウザはテーブルの内容を左上から右下へと横に読むために、タイトルだけ、説明だけを読み上げてしまうので、どのタイトルの説明かわからなくなります(図1-①)。
- 「報道発表資料」等に見られるテキストリンクですが、全文にリンクが張られていると、音声ブラウザのリンク先のみを読み上げる機能が意味のないものになってしまいます。～〇〇～とか(〇〇)のような部分は、リンクを外して短くする努力が必要です。
- 一般的に「検索」は表に出ているものですが、このサイトは「電子政府の総合案内」という、よくわからない項目に入っていました。全省庁の検索ができる優れたものだけに思えないと思います。ぜひトップページの目立つ場所に持ってきてほしいものです。
- 地方行政の中にイメージ図があり、拡大版にリンクしていますが、GIF画像に直接リンクがされています。一番簡単な手法ですが、音声ブラウザではタイトルがないので情報が得られません。面倒でも1ページ作って画像を張り付けるようにしましょう。また、図などには簡単な説明をつける必要があります(図-3)。
- 白書の中に「通信白書for Kids 2000キッズ」というコーナーがあります。いきなりFlashというのは困りますが、子どもだけではなく、知的障害者や一般の人にとってもわかりやすく書かれています。開かれた政府として活動を多くの人に知ってもらうためには、こんな形のページ作りも視野に入れるべきだと思います。



アクセシビリティ総合評価

★★★★★

一ロコメント アクセシビリティのガイドラインを管轄しているところなので、フレームも少なく、見たところ新しい技術も使っていないようです。そのため評価は良いのですが、音声でサイト内の必要な情報を探るのはかなり大変だと思われます。